



かがやく浜の子

令和2年度 11月号

令和2年度重点目標 「チャレンジいっぱい かがやきいっぱい」

「ドンマイ」と「ノーサイド」の心

好天に恵まれ、浜の子運動会を行いました。人数制限を設けた中での、たくさんの保護者の皆さんの御参会に感謝いたします。運動会に向かって、子供たちは、体育の時間ももちろん登校後や休み時間も、友達と声を掛け合って学年種目や対抗リレーの練習を積み重ねてきました。当日が近くなればなるほど、学校全体の雰囲気が運動会に向かって盛り上がっていききました。

運動会の前日、「仲間には『ドンマイ』、相手には『ノーサイド』の気持ちを子供たちにも大切にしてほしい」と、本校の先生方に話しました。先述のように子供たちの練習への取り組む姿勢はとても素晴らしいものでした。しかし、練習を重ねても、当日の些細なアクシデントで、うまくいかなかったり失敗したりすることもあります。そんな時、浜の子たちには、共に取り組んできた仲間を励ます「ドンマイ」の気持ちや声掛けができる思いやりの心を持ってほしかったからです。 【バトンパスの練習の成果を発揮】



「ノーサイド」については、静岡県発行の冊子『なるほど！はじめてのラグビー』に次のように書かれています。

「ノーサイド」という言葉は、主にラグビーで使われます。もともとは、イギリスで使われたルール用語で「試合終了」を意味するものでした。日本では、正々堂々と戦った後は、敵味方関係なく友達になる。そんな意味で使われています。

実は「ノーサイド」という言葉は、古い用語となり、今では日本でしか使われていません。ラグビーワールドカップでは、試合終了のことを「フルタイム」と表現します。しかし、「試合が終わったら、お互いの健闘をたたえ合う。」「だれも区別されることなく、一つになる。」そのようなラグビー精神は世界共通のもので、昔の日本ラグビー関係者は、その精神こそラグビーの良さだと感じ、それを「ノーサイド」という言葉とともに大切にしてきたのです。(一部改文)

昨年のラグビーワールドカップでは、あれほど激しい肉弾戦を繰り広げた後、試合後にはお互いに健闘を称え合う姿に清々しさを感じました。競技後は、勝敗のみに固執することなく、相手を称えるとともに、悔しさをバネにすることで、次への力強いステップにすることができると思うのです。

果たして、運動会当日には、

- ・ 集団競技で仲間のスタートが遅れたのを見て、手を引いて引き戻してあげる姿
- ・ 負けてしまったチームが、相手チームに拍手を送っている姿
- ・ リレーの時、転んでしまった友達を心配そうに気遣う姿
- ・ 負けたことはもちろん悔しいけれど、自分たちの新記録のタイムが出たことに喜ぶ姿

など、仲間や相手を思いやる「ドンマイ」や「ノーサイド」の気持ちが表れた子供たちの姿がたくさん見られたことに、嬉しさを感じました。また、子供たちの熱意と前向きに取り組む姿勢に、あらためて運動会の価値を感じました。(文責 校長)



【6年生の♪背を駆ける-SEASOBI】